

日本発ドイツ便り～ドイツであいさつ

今年のドイツは雨続きの涼しい夏だそうです。日本は台風で大荒れ。これからもどんどん「いままで例のない」異常気象、というのが増えてくるのかもしれませんが、考えるだけで怖いですね・・・。
怖い話はさておき、今回は、ちょっと「ほのぼの」な話題をお届けしたいと思います。一緒にドイツ語の挨拶も覚えてくださいね！

ドイツの街を歩いていると、実にいろいろなところで挨拶が必要になります。たとえば、お店に入るときには「Guten Tag(グーテン・ターク:こんにちは)」とお客さんも挨拶するし、帰り際には「Auf wiederseh'n(アウフ・ヴィーダーゼーン:さようなら)」と去っていくし、「Danke(ダンケ:ありがとう)」といわれたら必ず「Bitte(ビッテ:どういたしまして!)」という言葉が返ってきます。

それに対して日本では、同じようなケースを見ても、「いらっしゃいませ」に始まって、そのほとんどが答えの返ってこない一方的なものです。まあ確かに、いらっしゃいませ。といわれて返す言葉、というのも難しいですが・・・。

それ以外でもドイツの日常生活の中では、結構知らない人と話す機会が多いのです。大きな都市では、外国人率が30-40%なんてところも多く、あまり「外国人」という意識がないからかもしれません、どこでも誰にでも道を聞かし、電車の中でくしゃみをしようものなら、どこからともなく誰かが「Gesundheit!(ゲズントハイト:お大事に!というくしゃみをしたときの決まり文句)」とってくれることでしょう。(言われたら Danke と返しませう。)

レストランでは食べ終わった後食器を片付けにくるときには必ず「美味しかった?」と聞いてくるし、残そうものなら「どうしたの?」って聞いてくること間違いなしです。注文の仕方がおかしかったら、(たとえば、上から順に適当に選んで、1人でスープ2皿注文した、みたいな場合)ちゃんと「それはおかしい!」と指摘してくるし、まあ、何かとマニュアル(多分そんなものは無いと思いますが)どおりではない受け答えがでできます。

カフェで隣に座ってるおばあちゃんが話しかけてくるのは当たり前。一度電車の中で見た光景ですが、なぜか喧嘩を始めた夫婦に、「それはあなたがおかしい!」といって、割って入った見た目はパンクな兄ちゃんとか・・・。その後、いろんな人があーだこーだ言い出して結構な騒ぎに発展しました。

スーパーのレジのおばちゃんも、週末には「Schönes Wochenende!(シェーネス・ヴォッヘンエンデ:素敵な週末を!)」なんて言葉をかけてくれるし。(返事は「Danke, gleichfalls! (ダンケ・グライヒファルス:ありがとう、あなたもね!)」です。)クリスマスには町中で「Frohe Weihnachten(フロエ・ヴァイナハテン:メリークリスマス)」という言葉があふれます。

もともと、ドイツ人(特にお年寄りと年配の女性)はよい意味でおせっかいな人が多いように思います。(お年寄りは話を聞いてくれそうな人は大歓迎!)友達とカフェで話していたら、隣の人が意見を述べてきたり(これは最初相当驚いた)することも珍しいことではないです。(反対について聞こえてきた会話について何か言うてしまうこともありますね・・・。)

日本のサービスのレベルはおそらく世界でもトップクラスなんだと思いますが、でも「コミュニケーション」という意味では、一方的で、よく日本のお店で流れている、意味もなく、誰も聞いていない音楽と同じように、ただの音なんだろうなあ。とちょっと残念な気がします。あんまり愛想はよくなくても、コミュニケーションの取れる、ドイツのほうが、私はなんだかホットします。(もちろん好みの問題かもしれませんが…)。

もちろん、上で挙げたような状況というのは、ツアーではなかなか体験することができません。なぜなら、日本のドイツ旅行で大半を占める周遊型のツアーでは、日程のほとんどを移動に費やす必要があるし、食事もレストランの一部を貸切、となると、いわば外の世界とは隔離された状況にあるからです。ドイツの都市はどこも交通の便もよく、治安も比較的良いです。挨拶程度のドイツ語さえ覚えれば、あとは片言の英語でなんとかなります。一度、個人で、本当のドイツを見てきてほしいな…。と思います。

あれ？どこが「ほのぼの」だ？



Römerplatz, Frankfurt am Main: フランクフルト: レーマー広場

夏の風景。暑い日には、外のパラソルの下の席で、冷たいビールを飲みながら、または、冷たいアイスクリームを食べながら、本でも読みながら時間を気にせず、好きなだけのんびりなかなか快適ですよ。この時期、たとえば、お店の中なら冷房が入っていたとしても、店内はがらから、外の席は満席。そんな光景がよくみられます。もちろん、暑さの種類が日本とは異なります。「蒸し焼き」の日本の暑さと、「直火焼き」のヨーロッパの暑さ。ということは、パラソルの陰に入るだけでも多少は暑さから逃れられるのです。

なんだか全然関係ない話になってしまいましたが…。
もう挨拶も覚えたし、夏も素敵なドイツに出かけてみませんか？